



「毎年、花粉症の症状がツライ・・・」
「薬を飲んでるのにあまり効かない・・・」
「花粉症で日常生活に支障がでている・・・」

今のあなたの花粉症対策は
適切ではない可能性があります。

花粉症対策は人により正解が異なり
あなたに合った対策をする必要があります。

去年より快適に過ごすための
効かせる花粉症対策

【推奨環境】

このレポート上に書かれている URL はクリックできます。できない場合は最新の AdobeReader をダウンロードしてください。（無料）

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

◆ 著作権について

当レポートは、著作権法で保護されている著作物です。使用に関しましては、以下の点にご注意ください。

◇ レポートの著作権は、作者にあります。作者の書面による事前許可なく、本レポートの一部、または全部をインターネット上に公開すること、およびオークションサイトなどで転売することを禁じます。

◇ 本レポートの一部、または全部をあらゆるデータ蓄積手段（印刷物、電子ファイル、ビデオ、DVD、およびその他電子メディアなど）により複製、流用および転載することを禁じます。

◆ 使用許諾契約書

本契約は、レポートダウンロードした法人・個人（以下、甲とする）と作者（以下、乙とする）との間で合意した契約です。

本レポートを甲が受けとることにより、甲はこの契約は成立します。

第1条（目的） 本契約は、本レポートに含まれる情報を、本契約に基づき、甲が非独占的に使用する権利を承諾するものです。

第2条（第三者への公開の禁止） 本レポートに含まれる情報は、著作権法によって保護されています。また、本レポートの内容は、秘匿性の高い内容であり、甲はその情報を乙との書面による事前許可を得ずにいかなる第三者にも公開することを禁じます。

第4条（損害賠償） 甲が本契約の第2条の規定に違反した場合、本契約の解除に関わらず、甲は乙に対し、違約金として、違反件数と金壹萬円を乗じた価格の10倍の金額を支払うものとします。

第5条（その他） 当レポートに沿って実行し、期待通りの効果を得ることができず、万一如何なる損益が生じた場合でも、乙は甲に対して責任を負わないものとする。

【免責事項】

著者および発行者はこのE-BOOK を執筆するにあたり最大限の努力をしています。著者および発行者は、このE-BOOK の内容の精度や適用性、適合性、完全性についてはいかなる保証もいたしません。このE-BOOK の情報は教育を目的としているものです。したがって、このE-BOOK にあるアイデアを適用する場合の全責任は利用者ご自身で負うものとします。著者および発行者は、いかなる特定用途のためにもその保証（明示的であれ暗示的であれ）や商品性、適合性を否認いたします。著者および発行者は、このE-BOOK を使用することで直接あるいは間接的に発生する、直接的、間接的、懲罰的、特別、付随的、またはその他の派生的損害について、いかなる責任も負わないものとします。

また内容は現状のまま、保証なしで提供されるものとします。常に適任とされる専門家のアドバイスを求めるようにしてください。

著者および発行者は、このE-BOOK で記載されたサイト一覧やリンクの性能、有効性についてはいかなる保証もいたしません。

全てのリンクは情報目的だけに用いられており、その内容や精度、他のいかなる目的についても保証されるものではありません。

花粉症の薬と眠気

花粉症の季節が始まると、手放せないのが花粉症の飲み薬。

今や花粉症対策といえば、抗ヒスタミン薬と呼ばれる飲み薬が主流

となっています。その名の通り、体内でヒスタミンという物質の働

きを妨げる薬です。このヒスタミンがどういう働きをもっているか

詳しくみていきましょう。

【ヒスタミンの働き】

ヒスタミンは花粉が体内に入ると放出され、くしゃみ、鼻水、かゆ

み等の花粉症の症状をおこす働きがあります。そして、このヒスタ

ミンという物質は鼻の粘膜だけではなく、脳にもあり、脳では集中力や判断力の維持、覚醒の維持といった働きを担っています。

さて、ここで抗ヒスタミン薬を飲んだ時におこることを考えてみましょう。抗ヒスタミン薬はヒスタミンの働きを妨げるため、鼻においてはいくしゃみや鼻水などの花粉症の症状を緩和してくれます。

しかし、この抗ヒスタミン薬が脳に入ってヒスタミンの働きを妨げるとどうなるのでしょうか？

ヒスタミンによって維持されていた、覚醒、集中力、判断力が維持できなくなり、眠気がおこったり、集中力や判断力が落ちてしまい

ます。

これが花粉症の薬、抗ヒスタミン薬を飲んだ時におこる眠気の正体

です。

【2つの抗ヒスタミン薬】

現在、抗ヒスタミン薬には様々な種類のものがありますが、大きく

分けて、第1世代、第2世代の2つがあります。

花粉症の薬による眠気で悩んでいる人の多くが、この2つの違いを

あまり理解していないのが現状です。

花粉症の対策としては、自分の抑えたい症状を把握し、薬の特徴、

作用時間などを理解し、自分の生活スタイルに合った薬を選ぶことが重要です。

ここでは2つの抗ヒスタミン薬の特徴をみていきましょう。

【第1世代抗ヒスタミン薬】

第1世代抗ヒスタミン薬は花粉症の症状をおこす原因となるヒスタミンの作用をブロックすることで鼻水、くしゃみなどの花粉症の症状を緩和します。

使用感としては効果がすぐにでて症状が改善しますが、眠気や口の渇きなどの副作用が強く出る人が多いです。就寝前に服用すること

で眠気に関してはあまり気にならなくなります。

誤解を恐れず簡単にいうと、効果が強くすぐに効くが副作用が強い

のが第1世代抗ヒスタミン薬です。

古くから使われている薬ですが、副作用をきちんと理解した上で、

うまく付き合うことができればツライ症状にもよく効きますので第

2世代抗ヒスタミン薬が登場した現在でも希望して服用している方

はまだまだいらっしゃいます。



【第2世代抗ヒスタミン薬】

第1世代と同じくヒスタミンの働きをブロックし鼻水、くしゃみと

いった花粉症の症状を緩和するのは同じですが、脳のヒスタミンの

働きをあまり妨げないため、眠気や口の渇きといった副作用があま

りでないのが第1世代との違いです。

また花粉症の症状を引き起こす原因となるヒスタミン自体を放出さ

せないようにする作用もあるため、花粉症のシーズン前から飲み始

めることで症状を軽減する効果があります。

眠くなる、ということが花粉症の薬の最大のデメリットでもあった

ため、現在では第2世代抗ヒスタミン薬が処方されることが多くな
ってきています。

【花粉症の薬の選び方】

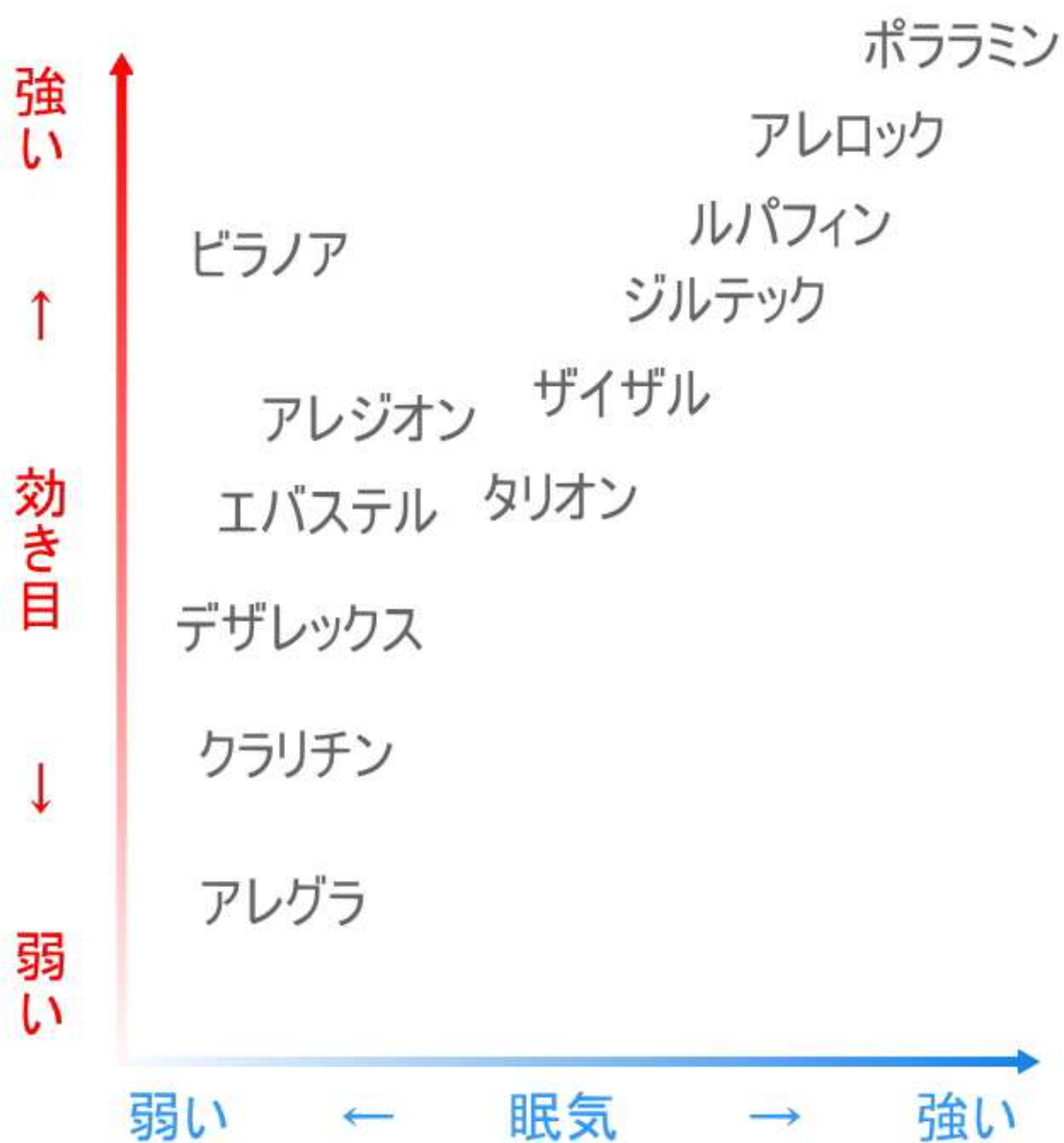
花粉症の薬は、自分がどのような症状に一番悩んでいるのか、どの
ような生活スタイルなのかによって選び方が変わってきます。

いくら効き目が強くても眠気が強くでる薬では仕事に支障が出る人
もいるでしょうし、眠くならなくても症状があまりおさまらないの
ではそれもまた支障がでてしまいます。

自分に合った薬を見つけるのが花粉症治療の大前提となります。

ここでは眠気と効き目のバランスの観点から選びやすいように現在

出回っている薬を表にしてみましたので参考にしてみてください。



薬が効かない場合の対処法

花粉症のシーズンに毎年マスクをしたり、薬を飲んだりと自分なり

に対処しているが、それでも症状がでてしまい、日常生活に支障が

でている、という人がかなりの数いらっしゃいます。

ただ、そのような人に詳しくどのような対策をしているか聞いてみ

ると、対策が不十分であったり、間違った対処をしている場合が多

いのです。

花粉症は正しい知識で正しい対策をすることでほぼ日常生活に支障

のないレベルまで症状を緩和することができます。

ここではあなたの花粉症対策が正しいかどうかを詳しくみていきましょう。

1. 薬を正しく使用しているか

現在使用している薬を正しく使用しているかどうかをチェックしてみましょう。非常に多い間違った使い方として、症状が強い時だけ薬を使用し、症状が治まると薬の使用をやめてしまうという使い方があります。これは花粉症において絶対にやってはいけないことです。花粉症の薬は内服、点眼、点鼻などほとんどにおいて、継続的に使用する必要があります。継続的に使用することによって 100%の

効力を発揮するのです。

簡単なイメージ例でいうと、普段から薬を使用し続けることによっ

て、花粉の刺激に強い体になりますが、調子がいいからと薬の使用

をやめてしまうと、花粉の刺激に弱い体にすぐに戻ってしまいます。

そこで花粉の刺激により花粉症の症状がでると、あなたの体は更に

花粉の刺激に敏感になってしまいます。どんどん花粉に弱い体にな

ってしまうわけです。これを防ぐためには調子のいい時でも、その

調子を維持するために花粉症の薬を使用し続ける必要があるのです。

薬の使用法をよく見て用法通り使用し続けてください。

2. 薬を飲むタイミング

薬といえば、食後に飲むものというイメージが強いのではないでし

ょうか。しかし、花粉症の薬には食後ではなく空腹時に飲まなけれ

ば効果が最大限に発揮されないものが多いのです。

例えばビラノアという薬では用法に「空腹時に飲むこと」と指定さ

れています。食後などの胃に食べものが入っている状態で薬を飲む

と薬が体内に吸収されにくくなり、効果が低くなってしまうからで

す。その影響はかなり大きく、食後に飲むことで薬が体内に吸収さ

れる量が 40%減少し、薬の血中濃度も 60%低下すると報告されていま

す。

ビラノアは用法に空腹時、と記載されているのでわかりやすいです

が、用法に明記されていない薬でも食後では効果が落ちる薬がいく

つかあります。

アレグラは「空腹時でも飲める」と広告などに記載されており、食

前でも食後でも飲めることになっていますが、薬の成分の血中濃度

を空腹時、食後で比べてみると、食後に飲んだ場合は空腹時の場合

より 15%血中濃度が低くなっています。食後に飲んでいて効果が低い

と感じた場合は空腹時に飲むと良いでしょう。

アレロックは空腹時、食後では空腹時の方が若干血中濃度が高くなっていますが、その差はあまり大きくはありません。

アレジオンは空腹時の方が食後の服用より血中濃度が高くなっています。こちらは空腹時に飲むのがよいでしょう。

ザイザルは用法に空腹時、食後の指定はありませんが、空腹時に飲んだ時の方が血中濃度の最大値が高くなっています。ただ数時間後の血中濃度にほぼ差は見られないため、飲んだ後すぐに症状をとめたいときなどは空腹時に飲んだ方がよいでしょう。

薬によって最も効果を発揮する、飲むタイミングが異なり、それが

用法に記載されていない場合もありますので、今一度用法をチェッ

クし、効きが悪いと感じたら自分が飲んでいる薬について調べてみ

たり、薬剤師さんに質問してみるとよいでしょう。

3. 重症度に応じた薬を選択しているか

薬が効かない、と感じている方に最も多いのが、自身の重症度に応

じた薬を選択できていない、ということです。

非常に多い例として、花粉症対策は抗ヒスタミン薬を1種だけ服用

する、というものですが、基本的に市販の内服薬1種で症状を抑え

られるのはごく軽症の人だけです。しかし、実際には花粉症患者の

約 8 割は重症度でいうと中等症以上となり、1 種の花粉症の薬では症

状を十分に抑える事は難しいのです。

「昔は 1 種で問題なく過ごせていた」という人もいらっしゃいます

が、長い年月花粉に晒されている中で花粉症の重症度は重くなって

いきますので、昔は軽症でも現在は中等症以上になっていても不思議

ではありません。

1 日に 5 回以上くしゃみ、もしくは鼻水がでるようであれば、中等症

以上の花粉症と考えてください。その場合は花粉症の薬 1 種では対

応できません。自身でできる簡単な対処法としては現在の内服薬に

加えて、「ステロイド点鼻薬」を併用する、ということです。

これにより鼻の症状に関してはかなり軽減される場合が多いです。

目のかゆみが強い場合は抗ヒスタミン薬が配合された目薬も併用す

ると良いでしょう。

症状がかなり強く出ている場合は、就寝前に１日１回タイプの効果

が強い抗ヒスタミン薬を飲み、起床時に眠気があまりでないタイプ

の抗ヒスタミン薬を飲むという方法もあります。これにより副作用

の眠気をできるだけ感じないようにしつつ効果も得られますので、

医師や薬剤師に相談の上お試してください。

4. 薬との相性

今飲んでいる薬がいまいち効かないな、と感じている場合、薬を変

更するのも1つの手段です。薬が効く効かないや、副作用の強弱は

人によって相性があり、ある人はアレグラが全く効かないのに眠気

が強くでていても、またある人にとってはよく効き、眠気も全くで

ない、ということもあるのです。友人からよく効くからと紹介され

た薬でも自分には全く効かない、ということがありますので注意が

必要です。

現在、第2世代抗ヒスタミン薬を使っていて、薬の変更を考えてい

る場合は、やみくもに変更するより、現在使っている薬とは異なる

構造式の薬を選ぶと効果がみられる場合があります。

第2世代抗ヒスタミン薬には薬の化学構造式によって、三環系とピ

ペラジン・ピペリジン系の2つに分けられます。

仮に今、三環系の薬を使用していてあまり効かないのであれば、同

じ三環系の薬に変更するより、異なる構造式であるピペラジン・ピ

ペリジン系の薬に変更する方がよいのです。



【第2世代抗ヒスタミン薬の分類】

三環系

アレジオン（エピナスチン）

アレロック（オロパタジン）

デザレックス（デスロラタジン）

クラリチン（ロラタジン）

ルパフィン（ルパタジン）

ピペラジン・ピペリジン系

ビラノア（ビラスチン）

タリオン（ベポタスチン）

アレグラ（フェキソフェナジン）

ザイザル（レボセチリジン）

ジルテック（セチリジン）

5. 日常生活でできる花粉症対策

いくら薬によって花粉症の症状をブロックできるといっても、体内

に入ってくる花粉の量が多くなればブロックしきれなくなってしまう

います。できるだけ、体内に花粉が入らないようにする必要があります

のですが、マスクやメガネといった基本的な花粉症対策だけでは

100%花粉の侵入を防ぐことは難しいです。花粉は室内にも入ってき

ますし、室内で常にマスクをつけておく、というのもあまり現実的

ではありません。

そこで有効な対策として白色ワセリンを使用する方法があります。

ワセリンは石油を原料として精製されたもので、主に保湿剤として使用されます。皮膚の上に油膜を張ることができるので肌のバリア機能を強化することができます。白色ワセリンは不純物を取り除いていますのでアレルギー反応がでることがほぼなく、肌がデリケートな人でも使用することができます。

主に保湿剤として使用されるワセリンですが、ワセリンを塗ることでその油膜が花粉をキャッチし花粉の体内への侵入を防いでくれる効果があります。

【花粉症対策としてのワセリン使用法】

・ 鼻への塗り方

綿棒に白色ワセリンを適量とり、それを鼻の入口付近に薄く塗ります。

鼻の下、鼻の入口周りなどにも塗ると効果的です。

症状が強く出ている場合は鼻の中の方にまで塗るとより効果的です。

この時あまり奥の方まで入れすぎないように注意してください。

・ 顔への塗り方

手をよく洗い、清潔な手でワセリンを皮全体に薄く塗り広げます。

顔のかゆみがなく、目だけに症状が出ている場合は、目の周りを 1

周するように目の下やまぶたに薄くワセリンを塗ってください。

ワセリンは外出前には必ず塗るようにし、帰宅したら一度ティッシ

ュなどでふき取ってから新しく塗り直してください。

室内にいる場合でも3，4時間くらいで新しく塗り直すようにして

ください。

ワセリンを塗る方法は医学的に正しい対策であると推奨されている

方法ではありませんが、非常に安価で手に入る白色ワセリンで効果

が体感できるため、推奨している医師もいます。

飲み薬ではない薬が登場しています

これまで、花粉症対策としては、抗ヒスタミン薬などの飲み薬が対策の主流でした。第2世代抗ヒスタミン薬のように眠気などの副作用が少ないものもでてきましたが、人によってはどうしても眠気、だるさといった副作用がでてしまいます。

飲み薬の場合、どうしても薬の有効成分の血中濃度の上下がでてしまい、飲んだ後すぐに急激に血中濃度が上がり、その後徐々にさがっていきます。この血中濃度がいきなり上がる際に眠気を感じやすいのです。

もちろん、薬の効く効かない、副作用の有無は人によっての相性に

よるところも大きいのですが、薬の成分の血中濃度の急激な上下と

いう問題をクリアすることで副作用をかなり緩和することが可能で

す。飲み薬によるこの副作用の問題を解決する薬が近年登場してき

ています。それが飲み薬ではない花粉症薬です。

これまで花粉症対策として飲み薬しか使用してこなかった、という

人にとって、有効な対策となりえますので、詳しく見ていきましょ

う。

【経皮吸収型アレルギー性鼻炎治療薬】

副作用の少ない第2世代抗ヒスタミン薬ですが、2018年に世界で初

めて皮膚に貼るタイプの抗ヒスタミン薬が販売開始されました。

それが経皮吸収型アレルギー性鼻炎治療薬、**アレサガテープ**です。

この有効成分は現在でも内服薬として処方されている第2世代抗ヒ

スタミン薬のエメダスチンとなっています。

＜アレサガテープの特徴＞

これまでの第2世代抗ヒスタミン薬では1日2回の服用のものが多

かったのですが、アレサガテープは1度貼るだけで、24時間効果が

持続します。1度貼ると貼り替え不要のため、内服薬のように忙しい時の飲み忘れなどもなくなります。

また、食前、食後などの服用時間の指定がないのも非常に大きいメリットです。第2世代の抗ヒスタミン薬の中には食前でないと効果が落ちるものもあり、それが非常に服用のタイミングを難しくしていました。帰宅してすぐに食事という人の場合、服用のタイミングが外にいる時しかないため、それが飲み忘れなどに繋がっていました。また、どうしても帰宅後でないと飲めない場合など、食前という条件を満たせず、薬の効果を大きく落とすことになっていました。

しかしアレサガテープでは食前、食後などの指定なく、自分の都合

のいい時間に1度テープを貼るだけですみますので、内服薬のよう

に飲み忘れもなく、また効果を落とすことなく使用できるのです。

内服薬の場合、嚥下能力の低下した人や、錠剤、カプセルなどを飲

み込むことが苦手な人の場合、服用継続が難しいこともありました

が、アレサガテープの場合、貼るだけでするので、スムーズに使用継

続することができます。

また薬を飲むのを嫌がる子供にも貼るだけで済むので親の負担も少

なくて済みます。

実際、アレサガテープの服薬継続率は内服薬と比較しても高いとい

うデータもあり、アレサガテープを推奨する医療機関も増えてきて

います。

普通の内服薬では飲んだ直後に薬の効果が最大に出て、後は徐々に

落ちていきます。1日1回タイプの薬でも、朝飲んだら夕方には少し

鼻水がでてきた、というように効果が落ちてくる場合があります。

アレサガテープの場合、皮膚から徐々に薬の成分が血中に浸透して

いくため、効き目が1日安定し、症状が変化しにくいというメリッ

トがあります。

そして気になる副作用ですが、実際のところ貼り薬だからといって

全く副作用が出ないわけではありません。しかし、内服薬と異なり、

薬の成分が飲んだ直後に一気に吸収され血中濃度が急上昇するとい

うことはなく、徐々に薬の成分が吸収され、血中濃度がフラットに

保たれるため内服薬ほどの副作用は出ない人が多いようです。



【ステロイド点鼻薬】

「点鼻薬」というと、一部の方からは不評であまり効果が体感できない、という人もいるようです。しかしそれは大きな誤解で、点鼻薬、特に近年市販もされるようになった「ステロイド点鼻薬」は花粉症対策に非常に有効なのです。

点鼻薬は

1. ステロイド点鼻薬
2. 抗ヒスタミン薬
3. 血管収縮薬

の3種類あります。

1. ステロイド点鼻薬

まずは現在最も使用されている、ステロイド点鼻薬です。

この薬は1日1回から2回の使用でしっかりと花粉症の症状を抑え

てくれます。「ステロイド」と聞くと副作用が怖いイメージがあり

ますが、点滴や内服薬と違い、点鼻薬は局所的に噴霧しますので、

吸収されて全身へ副作用がでるということがほぼ無く、安全に使用

できます。最大のメリットとしては抗ヒスタミン内服薬のように眠

気がでないということです。現在は軽症の花粉症の人にはこのステ

ロイド点鼻薬のみを処方することも多くなっています。

先ほどもお話した、点鼻薬はあまり花粉症に効果がないように思える、というイメージを持っている人は、主に以前薬局などで購入した点鼻薬をイメージしているようです。後程紹介する、抗ヒスタミン薬の点鼻薬と血管収縮薬の点鼻薬ですが、こちらは鼻水や鼻づまりなどに即効性がありすぐに効きます。しかし、ステロイド点鼻薬には実は即効性はないのです。そのため、すぐに効くと思ってステロイド点鼻薬を使用したものの効果を体感できなかったため、点鼻薬は効かないというイメージを持ってしまっている人が多いのです。

これ、非常にもったいないことです。

効かなかったのではなく、使い方を間違っているのですから。

ステロイド点鼻薬は毎日使用していると徐々に効果を発揮していく

特徴があります。そのため毎日しっかりと忘れずに点鼻を続ける必

要があります。毎日しっかりと点鼻薬を使うことで内服薬を毎日飲

んでいるのと同じような効果を発揮します。

軽症の方は花粉症のシーズン前からステロイド点鼻薬を使用するこ

とで内服薬を使用することなく花粉症シーズンを過ごせる人も多い

です。中等症以上の人はステロイド点鼻薬と第2世代抗ヒスタミン

薬の内服薬を併用することで内服薬のみの場合よりはるかに症状を

抑えることが可能です。

今まで、点鼻薬は効かない、というイメージを持っていた方は是非

考え方を改めて、正しい使い方で今期試してみてください。きっと

イメージが変わります。

＜抗ヒスタミン点鼻薬＞

抗ヒスタミン点鼻薬は名前の通り、内服薬としても使用されている

抗ヒスタミン薬が入っている点鼻薬です。ステロイド点鼻薬が主流

になる前は抗ヒスタミン点鼻薬が主流でしたが、現在では治療の補

助的な立場となっています。

ステロイド点鼻薬と違い、即効性がありますので、既に症状が強く

出ている人や、花粉の多い日など症状が強く出た日用の頓服用とし

て処方されることが多いです。

＜血管収縮薬入り点鼻薬＞

最後に血管収縮薬入りの点鼻薬ですが、昔の点鼻薬といえばこれで

したが、最近ではあまり使われなくなってきました。

血管収縮薬は即効性がありますがかなり有効時間が短く、一日に何

度も使う必要があります。しかしこの薬を長期間にわたり使ってい

ると薬剤性鼻炎という新たな鼻の炎症となり、鼻づまりの原因とな

ってしまうのです。市販の点鼻薬を購入するときはそれが血管収縮

薬入りなのかどうかを薬剤師に確認してから購入することをおすす

めします。

もし使用するときには10日間まで、と使用期間を決めて使用しましよ

う。

花粉症対策として点鼻薬を使用するのであれば、まずはステロイド

点鼻薬を第一手段として採用し、症状が酷いときなどの頓服用とし

て抗ヒスタミン点鼻薬を使用するのがおすすめです。

薬の効きが悪い人の救世主

近年、花粉症の人の数は増加傾向にあり、4人に1人は花粉症で悩ん

でいます。その中でも、非常に症状が重く、薬を飲んでいても、く

しゃみや鼻水が止まらず、日常生活や仕事に支障が出ている人も少

なくありません。更に効果が強い薬に変更したいが、眠気などの副

作用の関係でできない人や、内服薬、点鼻薬、点眼薬などの花粉症

薬を可能な限り使用していても症状が改善できない人。

このような人達にとって、救世主ともいえる、1つの選択肢が近年増

えました。

それが抗 IgE 抗体製剤「ゾレア」です。

ここで、花粉症のメカニズムのおさらいをしましょう。

スギやヒノキなどの花粉が鼻の粘膜に付着すると、アレルゲン、体

にとって有害な異物であると認識されます。

すると体の免疫システムは、IgE という免疫グロブリンを作ることで

アレルゲンを排除しようとしめます。免疫グロブリンとは、異物が体

内に入った時に排除するように働く抗体の機能を持つたんぱく質の

ことです。

この IgE の働きにより次にアレルゲンが体内に侵入すると、過去に

認識した、「スギやヒノキのような花粉は体にとって有害な異物で

ある」という情報に基づき、有害な異物と見なし体から排除しよう

とします。その排除方法として、異物である花粉に対する免疫シス

テムである IgE が生み出され、それが肥満細胞の表面に備え付けら

れ、花粉を迎えうちます。入ってきた花粉はこの肥満細胞に並んだ

IgE と結合します。この際に肥満細胞に「体に異物が入ってきた！そ

れを排除しなければ！」というスイッチが入り、ヒスタミンという

物質が大量に放出されます。このヒスタミンの働きにより、くしゃ

み、鼻水、鼻づまりなどの花粉症の症状が発症します。

ここまでをよく見ると、そもそも花粉が体内に入ってきたときに作られる IgE が体内に無ければ、再度花粉が体内に入っても花粉症の症状が起こらない、ということを理解できると思います。

【ゾレアの特徴】

ゾレアは花粉が体内に入ることによる生み出される IgE と結合し、IgE が肥満細胞と結合できなくする働きがあります。

IgE が肥満細胞と結合しなければアレルギー症状のスイッチが入る

ことはないため、花粉症の症状であるくしゃみ、鼻水、鼻づまりなどの症状をその根本から防ぐことができるのです。

【ゾレアの治療を受けるための条件】

ゾレアは他の花粉症治療薬では十分な効果が得られなかった人にも

効果が期待できる治療法ですが、この治療を受けるにはかなり厳格

な条件が定められています。

これは、ゾレアが副作用があり危険だからという理由ではなく、現

在のところ非常に薬価が高い薬であるため、条件に合わない人が使

用することで治療費がかなりの高額になってしまう恐れがあるため、

乱用による治療費の跳ね上がりを避け、適正な使用を促すための条

件です。

条件 1. 12 歳以上であること

条件 2. 体重 20～150kg 内であること

条件 3. 血液検査での IgE 濃度が 30～1500IU/ml であること

条件 4. 花粉症が重症または最重症であること

条件 5. 前年度の花粉症シーズンでも重症であったこと

条件 6. スギ花粉のアレルギー検査でクラス 3 以上であること

条件 7. 花粉症の治療を 1 週間以上おこなっても効果が不十分であったこと

以上の条件全てに適合する必要があります。

【ゾレア治療開始までの流れ】

1. 問診や検査により、現在の花粉症の症状が本当に花粉症のものであるかどうかや、重症または最重症であるかどうかを診断します。
2. 血液検査をおこない、スギ花粉に対する IgE 値、総 IgE 値を測定します。
3. 体重を測定します。
4. 抗アレルギー薬やステロイド点鼻薬などの通常の花粉症の治療を開始します。この期間は 1 週間となり、ここまでを初診でおこないます。
5. 1 週間後、通常の花粉症の治療の効果を診察で確認し、あまり改善が見られなければ、通常の花粉症の治療では効果不十分である、と診断します。

6. 前回の血液検査の結果で条件適合していれば、ゾレアの投与量や投与感覚、費用の説明をします。その後、ゾレア治療を開始するかどうか患者本人の意志により決定します。ここまでが2回目の受診時でおこない、ゾレア治療を開始するのであれば次回から治療開始します。

【ゾレアの治療費】

ゾレアの治療費は薬剤費のみの計算では、3割負担で、1か月あたり

4500円から7万円の価格帯となります。これだけ治療費に差がでる

のはゾレアの投与量が体重とIgE値によって変わるためです。

基本的に体重が重く、IgE値が高い人ほど投与量が多くなるため治療

費も高額になります。このあたりはジレンマとなりがちですが、重

症の方に多い IgE 値が高すぎるケースでは投与量が増えすぎるため、

逆に投与条件に適合しなくなってしまう。

また IgE 値が条件内であっても体重が思い方は投与量の限界値を超

えてしまい、投与条件に適合しないこともあります。

【治療費例】

30 歳

体重 : 60kg

IgE 値 : 80

4 週間に 1 回 150mg の投与量

3 割負担で 1 か月 8744 円の治療費となります。

40 歳

体重 : 90kg

IgE 値 : 520

2 週間に 1 回 600mg の投与量

3 割負担で 1 か月 69953 円の治療費となります。

このように体重と IgE 値により、治療費はかなり変わってきますの

で 2 回目の診断時に医師から治療費を説明を受け、治療を受けるか

どうか判断しましょう。